



# 学校だより

小田原市立橋中学校

令和6年12月12日発行第9号

小田原市立橋中学校

校長 磯辺 和彦

校訓：豊かさ・確かさ・たくましさ

夏を思わせるような日があったかと思うと、突然厳しい寒さに見舞われ、今年も「秋」を実感できる日が少なく感じました。寒暖の差が激しい時期は体調を崩しやすくなります。インフルエンザ、新型コロナ、風邪等の予防する意味でも、適度な運動、十分な睡眠、バランスの取れた食事など、引き続きご家庭でもご留意ください。

さて、2024年も最後の月となりました。3年生は進路面談を終えました。現時点で進路希望先が決定している生徒もいれば、まだまだ迷っている生徒もいるはず。多くの生徒にとって、これから進む道を決めることは初めての経験です。迷ったり、悩んだりすることは当たり前です。自分事としてじっくりと考えてほしいと思います。保護者の皆様には、子どもの声に耳を傾け、「人生の先輩」として、アドバイスをいただけると幸いです。

1・2年生は、9月からの4か月間のまとめの時期です。13日から始まる保護者面談で、自分の「成長」とこれからの「頑張りたいこと」を自分の言葉で語れることを願っています。

## バスケット“河村勇輝”選手に学ぶ

河村勇輝選手は、バスケットボール日本代表でパリオリンピックでも日本の若き司令塔として活躍しました。

今年の夏のオリンピックでは、強豪フランスを相手に残り16.4秒で84-80と4点リードを奪いながらも同点に追いつかれ延長戦の末に敗れました。その悔しさはもちろん、中心選手として、試合をコントロールする立場として、それができなかった責任を口にしました。あの試合で誰よりも点を取り、輝いていたことなど、河村選手にとっては関係ありませんでした。

あの試合後、多くの人たちが審判の誤審について意見を交わしています。SNSでの誹謗中傷もありました。確かに最後のフランス選手への河村選手のチェックがファールではなかったのではないかという意見はありました。紙一重のジャッジであったことは間違いありません。ただ、それらはきっと河村選手の思考とは相いれないものだったと思います。

バスケットボールの世界で繰り返し言われることがあります。「試合にはコントロールできることと、できないことがある。」相手の調子や審判の判定はコントロールできないもの。だから、コントロールできることに集中すべきだと…。

それが成長するために、試合に勝てる選手になるために必要だからだと、河村選手は常に自分の成長のために「自責思考」を持ちながら、自問自答しながら今日も夢のNBAで挑戦し続けています。

## 一筆集中！素敵な静寂…

12月9日(月)席書大会を行いました。国語の授業での練習を経て、全校一斉に各場所で新聞紙をひろげ黙々と取り組みました。1年生は「将来の夢(楷書)」、2年生は「新たな目標(行書)」、3年生は「旅立ちの春(行書)」です。一人ひとりが自分の書と向き合い、一筆一筆お手本を見ながら黙々と集中して書いていました。

教室の中

は、筆を動かす音しか聞こえない静けさで、素敵な空間でした。粘り強く



取り組む姿勢は、「カッコよかった」です。来年も楽しみです。

## 全力で自分に挑戦！

12月11日(水)橋中伝統のロードレース大会を実施しました。1周600m(登っては下る厳しいコース)を2周から4周を自分の体力と目標に合わせて選びます。本当に辛くて、苦しい行事です。

それでも自分が決めた目標に向け、保健体育の授業の時からしっかりと取り組んできました。当日も各学年とも必死に頑張る姿にとてもさわやかな気持ちになりました。

ロードレースを通して、改めて「全力」「真剣」「あきらめない」姿にカッコよさを感じました。あきらめの悪い全力で真剣な姿って、なぜ、こんなにもカッコよいのでしょうか。これぞ、スポーツの醍醐味!スラムダンクの安西先生が三井選手の中学校時代の試合中にかけた「あきらめたら、そこで終わりですよ」というあの言葉が思い出されます。「あきらめない」という単純な思考は、とてもシンプルだけれども大切な習慣です。



今年も地域の皆さま、保護者の皆さまに大変お世話になりました。令和7年もよろしく  
お願い申し上げます。よいお年をお迎えください。